



犬とキャッチボール

④

私は数年前、米国サンフランシスコ近郊のドッグ・トレーニング・スクールで、アシスタントをしていたことがあります。そこで平日夜に開かれていた子犬向けしつけ教室は、新鮮でした。

夜の6時か7時ごろ、まだ小さな子犬を大事そうに連れて来た人たちが、教室に集まってきました。学校や仕事の帰りに寄る人も多く、カップルが教室の前で待ち合わせていたり、スーツを着たお父さんが少し遅れて入ってきたりという光景も、よく見かけました。

ある時には、小学生の男の子が、明日までにやらなくてはいけない宿題がある

と言つて、レッスン中に教室の隅っこで宿題をしていました。

米国のしつけ教室

家族みんなで参加

る、なんてこともありました。

みんなが「がんばって犬をしつけるぞー」と、意気込んでいたわけではありませんが、むしろ犬と楽しい時間を過ごしたいという人のほうが、多かつたように思えます。それでも、しつけ教室はできるだけ家族みんな

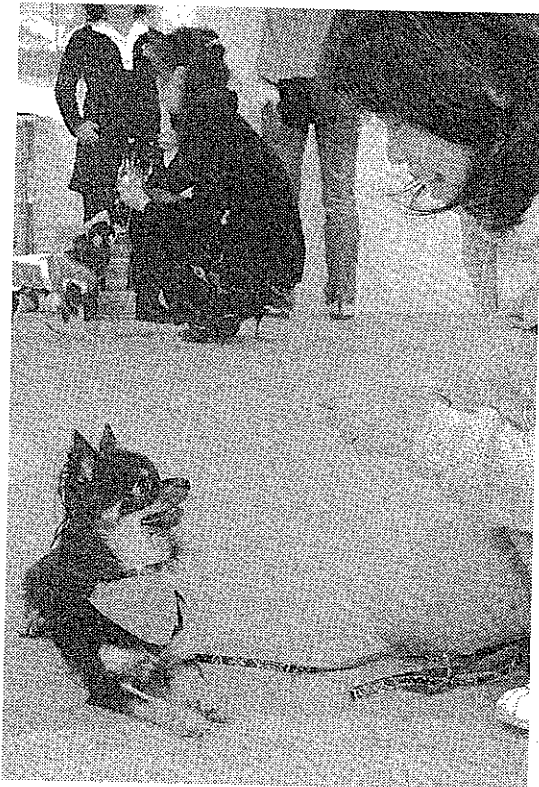
で参加するもの、と位置づけられていたのが印象的でした。

犬を家族で飼う場合、接し方がばらばらでは犬が混乱してしまいます。同じことをしたのに、お父さんにはしかられ、お母さんには褒められたり、指示の出方が人によって違つて

いた…。みんなでしつけ教室に参加すれば、同じ対応ができるようになりま

す。「しつけ教室」というと、「とりあえず犬が賢くなつてくれれば」といったイメージが強いかも知れませんが、でも私が見てきたスクールは、犬をトレーニングするだけでなく、共に暮らす人たちが、犬の接し方を身につける大切な場にもなっていました。

(辻村愛・ドッグトレーナー)



日本ではドッグトレーニングは普及の途上だ